

北奥羽調査だよ！



「岩木山の麓でりんごの栽培をするRINGOMUSUME」

● おもな内容 ●

■ 地域情報

■ トピックス

■ 新施策紹介

■ 新設課の紹介

■ 業務紹介

■ 突撃インタビュー

■ 職員紹介

■ 編集後記

- ／ 普通水利組合設立 100 周年、
土地改良区設立 70 周年を迎えて
- ／ 浅瀬石川二期地区着工！！
- ／ 流域治水の取組について
- ／ 財産管理課が新設されました
- ／ 事務所業務体制（令和3年度）
- ／ 調査地区の紹介「岩木川左岸地区」
- ／ 調査地区の紹介「浪岡川（二期）地区」
- ／ 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
- ／ 青森県発 農業活性化アイドルを全国へ
- ／ 入省2年目を振り返って



東北農政局
北奥羽土地改良調査管理事務所

農林水産省

地域情報

～普通水利組合設立 100 周年、

土地改良区設立 70 周年を迎えて～



いなおいがわ 稲生川土地改良区 理事長 まるい ゆたか 裕

今年は、普通水利組合設立 100 周年、来年は土地改良区設立 70 周年の節目を迎え、これを記念として、去る令和 3 年 8 月 6 日に十和田市サン・ロイヤルとわだに於いて、土地改良区関係者はもとより、国県市町並びに各団体を含め約 120 名のご臨席を賜り、記念式典・記念講演を挙行いたしました。

式典では、内田幸雄 東北農政局長様（当時）をはじめ来賓の方々にご祝辞やメッセージをいただき、今日まで本土地改良区に役員・総代・地区管理員として 30 年以上ご尽力いただきました 15 名の方々に感謝状を贈呈させていただきました。

また、記念講演では「太素の志 明日に伝える稲生の水」と題し、豊 輝久 東北農政局 農村振興部長様から、開拓の歴史を振り返りながら、昭和 54 年度から平成 21 年度迄実施されました国営相坂川左岸農業水利事業の内容を説明いただき「稲生の水」は、農業振興はもとより、地域振興や歴史・伝統・文化の継承、環境・景観への配慮、地域コミュニティの形成などに大きく貢献されていることなど貴重なご講演を賜りました。

「無益の曠野」と言われ、誇られてきたこの台地が、南部盛岡藩士新渡戸 傳 翁の慧眼にふれ、時に安政 2 年初鋤が振り下ろされてから 167 年、上水からは 163 年の星霜を辿り、不尽の流れとして今日を迎えております。

人工河川「稲生川」は、新渡戸父子三代に渉る畢生の大事業であり、この地方にとってかけがえのない用水路となり、平原は一大沃野と化し、数多くの恵みを受けることができるようになりました。

三本木平の大動脈たる上水工事に果敢に取り組んだ父子は、吉助ら南部土方衆を志和地方から招き測量、開鑿した技術力は勿論のこと、産業開発の基礎となる都市計画を立案しました。

この拓水は上水来 160 余年に渉り、農業用水、発電、飲料水、生活環境用水、更には、国立公園十和田湖・奥入瀬川の風致保存に大きな役割を果たし続け、「久遠の清流」として台地に住む住民の糧となっております。

明治 17 年「三本木共立開墾会社」を設立し、水路の補修や、開墾を進め 10 年後、現在、NHK 大河ドラマ「青天を衝け」で放映中の渋沢栄一翁の助力を受け、株式会社に組織変更、明治末期には太平洋までの水路が完成し、広大な「渋沢農場」を開設、農場経営を通して、この地域は発展しました。

大正時代には水利権紛争が起こり、渋沢栄一翁は東京帝国大学農学部ひろしの原 熙 教授に依頼し、助手

であった後の第 5 代渋沢農場長、初代 十和田市長、初代 稲生川土地改良区理事長となる水野陳好翁が策定した協定案によって紛争は解決することができました。

今から 100 年前の大正 10 年には、国に開墾事業を進めてもらおうという機運が高まり、稲生川普通水利組合が設立されました。

水野陳好翁は、国に 379 回に及ぶ陳情をし貴族院議員の新渡戸稲造先生のお力添いもいただき、念願の国営三本木開拓建設事業として着手施行され、大きな水利用の再編を成し遂げました。

十和田湖及び奥入瀬川の水利用は「観光・発電・農業」の三位一体となる「奥入瀬川河水統制計画」の規制により、現在も尚、運用されております。

以来、先人の叡智と情熱が実を結び、水不足に苦しむ三本木原地域の農業を画期的に変え、食糧生産の礎を築きあげました。

稲生川土地改良区は、昭和 27 年に青森県知事からの認可を受け、普通水利組合から組織変更となり、来年で 70 周年を迎えます。

当時、関係する 12 土地改良区と三本木原土地改良区連合の管理状況も複雑となったことから大規模合併と連合解散をし、合理化と新規水源確保を目的に、昭和 53 年から相坂川左岸農業水利事業、昭和 59 年には、附帯県営事業で幹線・支線・揚水機場の改修を含め、六戸調整池などの新規施設も造成され、更に、地域住民の意向に沿った環境保全や地域用水機能を高める路線も含めた「稲生川ふれあい公園」等も誕生しました。

また、東日本大震災発生を踏まえ、農家負担軽減と二酸化炭素削減を目的に平成 26 年 7 月稲生川小水力発電所が設置され、作家／脚本家／画家／映画監督／演出家など多岐にわたり活躍中の大宮エリー氏による「蝶と里山」と題した壁画が描かれております。その下流では、稲生川ふれあい公園のせせらぎ水路沿いにある伐採杉の切り株を利用したチェンソーアートとともにウォーキングなど健康増進や憩いの場として多くの地域住民に利用されております。

今回の記念事業の一環として、一般向けに「未来へ流れゆく命の水 稲生川」という DVD 動画を作製しました。また、同タイトルで、小学生総合学習用の DVD 動画もわかりやすく作製しております。

この DVD を地域の皆様に広く活用していただくことや他方面から来られる団体への説明、毎年県内小学校約 20 校の施設見学時の学習用など、多くの利活用を期待しております。

163 年前に開墾された「稲生川」は、先人の開拓精神を受け継いできた多くの人々によってそれぞれの時代に求められる川となり、未来へと「命の水」を流し続けております。

これまで「疏水百選認定」、「選奨 土木遺産」、「世界かんがい施設遺産」など名誉ある称号をいただきました「稲生川用水」という歴史的資産と地域とのコミュニティを、これからも大切に未来へと引き継いでいくことが大きな使命と考えておりますので、なお一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

